

# 《会員の広場》

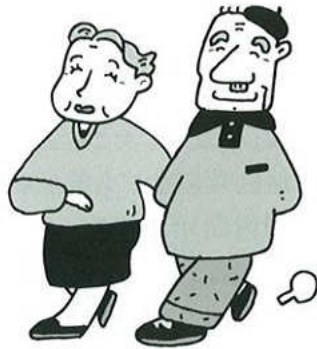
## 老人クラブと解悟

蒲郡第三栄宝会 吉見 明次

私は60歳で狭心症に襲われた。薬は3週間毎に病院で戴き、茫然と薬と共存共生だった。だんだん弱気にもなって11年も続いていた。或る日、老人クラブの役員の方が、入会を勧めてくれた。1年が経った。2年目に単位クラブの会長にと頼まれた。気軽に受けた。

毎月、会長会議があるが、どうしても、その空気に馴染めなかった。自分の方が何を考えているか深く疑ってみた。私は今こそ利害の事柄から離れる頃合いと直感した。まず、証券を全部手放した。大損をした。そのショックで、狭心症が消え去った。そうして少しずつ、日々の軽快感が増殖した。年寄りの欲張り被害が、その身に及ぶ事を多く知った。

今、入会から7年になるが老人クラブに不満はない。稀に、身勝手な方もあるが時には、自分も真似してみると案外、お茶目を知って楽しいときもある。我慢は御免であるが、多少の迷惑は、お互い様で、「自由な活動集団でよい」、と思っている。



里山づくりにシニアパワー全開  
さつま芋の収穫&パーティーで歓声  
第一明朗会(里山を愛する会事務局) 榊原 郁夫

少子高齢化や核家族の進行に伴い大塚地区においても、人間関係の希薄化や連帯感の欠如により、住民参加の場も少なくなり、コミュニティー機能が衰退しつつある。そこで、シニア世代が中心となり「橘丘里山緑地を愛する会」(会員68人)を21年4月に再結成し、総代会、子ども会、小・中学校等に呼びかけ、地域ぐるみで旧市営住宅跡地を自然環境の豊かな緑地公園に

整備し、地域住民に自然の素晴らしさや動物・昆虫たちとふれあい親しむ学習の場づくりを進める。また、将来を託す子どもたちと協働で汗を流すことで、世代を超えた人間関係の形式「絆」ができ、地域力の向上を図ることとしている。愛する会は、10月24日に大塚子ども会(約130人)の協力を得て、「芋掘り&焼芋パーティー」を参加者約200人で盛大に実施した。子ども会世話役の先導で、大塚公民館から徒歩で約30分かけて里山に集合、小林史宙会長から「地域の大人たちが、里山づくりに真剣に取り組んでいます。皆さんも自然や生き物を大切にする人になって下さい」と挨拶の後、焼きいも・豚汁の試食と芋掘り体験をした。真剣に畝を掘り起こし大きな芋が取れるたびに歓声があがり大喜びであった。終了後に「でっかい芋が取れたし、豚汁と焼芋がすごく美味かった、来年も絶対来ようね」と嬉しそうに話しながら帰っていったのが印象的だった。今回のイベントは、里山の今年度事業も各方面からの補助金等により、順調に進み見違えるように変化して立派な里山公園となった。大人たちとふれあい芋掘り体験等により、地域の子も達が自然に先ず親しみ、大切さを知る最初のきっかけづくりをするのを目的としている。この里山は、我々が子どもの頃は「青年山」と呼ばれ、父親に連れられて赤松の木の下で「松茸やシメジ」を取ったこと、雪の積もった朝早く近所の仲間何人かでウサギ捕りで山の中を走り回った事などが思い出される。奉仕、友愛、健康の活動精神を尊重して自然環境保護、子ども達の健やかな成長を支える事ができ、地域を豊かにする里山づくりを継続することで、来場する子ども達が増加して、将来この里山を大塚の思い出として、記憶に留めて貰える事を期待している。

